



カルチャーを
共有できる場としての本屋
独立系書店の
可能性を広げていく

なでしこ力

Power of Nadeshiko

書店は全国的に減少しているが、独立系書店は少しずつ増えている。Reading Mug は西山商店街（名東区）に開業して5年目。新刊本の他、他では手に入らないような洋書や古書、ZINE（少数数の自費出版物）を扱う。レトロな商店街の一角で、カフェやギャラリーも併設、定期的に読書会や英語のレッスンも行う。寄付された書籍の売上の一部は社会貢献活動にも当てている。

独立系書店としても異彩を放つ

名古屋市名東区の西山商店街にある独立系書店 Reading Mug は「多様性を伝える本屋」。日本語で書かれた和書が7割、英語やその他の言語で書かれた洋書が3割。多彩な視点から書かれた本が並ぶ。新刊本だけでなく、Amazon などでは手に入らないような洋書や古書、絶版の本を扱う「セレクト本屋」でもある。同じ絵本を、洋書と日本語訳の両方をラインアップ。こうした店は全国的にも珍しい。

日本の新刊本は取次から、古書は独自のルートで古書店などから仕入れ、ZINE は作家から直接買い取る。洋書の仕入れは、主に英国に出向いて直接状態を確認し買付をしている。海外では「状態が悪くても本は読めればOK」と考える人が多く、日本人から見ると「状態の悪い古本」も、ネット上では「良品」として販売されることもあるからだ。

一方で英国では文学の歴史もさることながら、製本や装丁に関しても長い歴史の上で培われた技術があり、多くの人が価値を認識し

ている。そのため、手に取れる美しい装丁の名作や、絵本が常に出版されている。「不思議の国のアリス」など、同じ内容でも装丁違い、エディション違いなど、コレクター向けの凝った作りの本が多く販売されているが、日本では情報が届かない場合も多い。キムラさんはそんな美しい本、珍しい本を現地で見つけて仕入れてくるのである。

英国の本文化がつくってきたもの

子どもの頃に読んだ洋書絵本の美しさに惹かれ、グラフィックデザイナーになったキムラさん。ブックデザインの仕事のヒントを得ようと英国の本屋巡りをした際、日本と大きく違う英国の書店と文化を知った。本は文化の柱ととらえ、作家保護にも力を入れており、採算の取れている独立系書店が多い。また本屋が地域のコミュニティスペースになっており、キムラさんは「こんな本屋が日本にもあったら」と考えるようになった。

2020年、商店街活性化のためのワークショップ「ナゴヤ商店街オープン」（名古屋主催）に参加したことをきっかけに、名



ティールブルーが鮮やかな外観



新刊本・古書・洋書・絵本などが並ぶ店内の様子

